



カトリック新潟教区
編集発行人 教区報編集部
〒951-8106
新潟市中央区東大畑通1-656
TEL. 025-222-7457
FAX. 025-222-7467

北山原で一〇〇〇人のミサ 米沢の殉教者列福記念式典

昨年の五月十二日、殉教者特別年の開幕ミサで始まった新潟教区殉教者特別年は、各小教区で米沢の殉教者を想い共に祈り続けて来た一年間の特別年閉幕の日、ルイス甘粕右衛門を始め五十三人が殉教した北山原の地に、教区内外から四十人を超える司祭団、一〇〇〇人近い修道者や信徒らが集まって、五月十六日十一時から列福記念の野外ミサを捧げた。



殉教地で感動と誓いをあらたに

うらかな春の日に恵まれた菊地功司教主司式のミサは「米沢の殉教者賛歌」の歌声の中を殉教者の聖遺物を掲げた本間研二師(山形地区長)を先頭に菊地司教、谷大二司教(埼玉)、平賀徹夫司教(仙台)、アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教(ローマ教皇庁駐日大使)、山田宣明師(イエズス・マリアの聖心会管区長)、成田浄司師(米沢教会主任)をはじめ、教区内外の各司祭が新設された自然石の記念祭壇を囲んだ共同司式のミサが荘厳に進められた。説教にたれた菊地司教は次のように述べた。(要旨)

「北山原の地に降り積もった雪の中、感謝と賛美の祈りをもってその命を神にささげた私たちが信仰の先達五十三人は、三八〇年という時を経た今、ペトロ岐部と一八七殉教者として福者の称号を教会から与えられ、キリスト者として生きる私たちに信仰生活の輝かしい模範を示しています。

この米沢の地に殉教者たちがこのように顕彰された栄誉を受けるようになった歴史には一九二八年に刑場跡地を発見したシュエンテック神父を始め、教会内外の多くの方々のご尽力がありました。

本日列福感謝のミサを捧げるにあたり、まず米沢におけるキリシタンとその殉教の歴史研究のために尽力された多くの方々、祈りで列福運動を支えてくださった方々に、心から感謝を申しあげます。

さて、殉教の日から三八〇年を経た今、殉教者たちがいのちを捧げたこの同じ場所に立つとき、殉教のその時に至るまでの米沢におけるキリスト者たちの歩みに、感動と尊敬の念を抱かずにはいられません。

当時すでに米沢にあつてキリスト者共同体は「組」と呼ばれる信心会を作つて広く地域における愛徳の実践にあたつていて、人間にはすべてを賭してさえも、全てを投げ打つてさえも守るべき価値観、神の愛の業が厳として存在することを示したことであつて、今を生きる私たちにはつきりと示している模範があります。

殉教者たちは私たちキリスト者に対して、福音を生き抜くことを求めています。

殉教者たちは、人とともに、人のために苦しみ抜くことを求めています。

殉教者たちは、真理と正義のために、苦しみ抜くことを求めています。

殉教者たちは、愛ゆえに、真の意味で愛する人となるように、苦しみ抜くことを求めています。

福者殉教者の取り次ぎに信頼しながら、勇気を持って福音をあかしする生き方を選び取りましょう」と呼びかけた。

ミサ後参列者は米沢市内のホテルに設けられた祝賀会場に移り、北山原で祈りを捧げた教皇大使アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教は祝賀会の挨拶で「パチカンも殉教の場

教皇大使 山形で主日のミサ

アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ教皇大使は、五月十七日復活節第六主日のミサを九時から山形教会で捧げた。

ミサには山形教会信徒だけでなく新潟からの巡礼団十九人も加わつて二〇〇人近いミサであつた。

聖堂二階の聖歌隊席には「米沢の殉教者賛歌」を作曲した新垣壬敏先生がミサ曲合唱の指揮をされ、素晴らしいミサとなった。

ミサ後の大使歓迎会で、大使はサンタルチアの美声を



ラテン語で祝福を与える教皇大使

であることを皆さんも認識していただきたい。皇帝ネロはペトロや多くの殉教者の血を流しました。パチカンは聖なる場所であり、このことによつて米沢とパチカンはつながっています。」

「米沢の殉教の特徴は迫害も拷問もなく、サムライの威厳をもつて自ら殉教に臨んだことです。彼らは日常の生活の中で殉教の証をしていました。この教区の中に殉教者の信仰が強められ、日本中にも行きわたりますように。また殉教者のことを学びお互いに神の愛に生きるように祈ります」と結ばれて、招かれた安部三十郎米沢市長と握手をかわし盛大の拍手に包まれた。

祝賀会では各地から信徒による殉教の場面を語る琵琶の演奏、愛の兜を手にした舞踊、カッチー二作曲のアヴェ・マリアの独唱などをはじめ、会場を回る花笠音頭の輪に教皇大使は喜んで拍手を送つて盛会であつた。

新司祭の誕生

フランシスコ・サレジオ坂本耕太郎神父

晴れ渡った五月六日正午から新潟カトリックにおいて、フランシスコ・サレジオ坂本耕太郎助祭の司祭叙階式が菊地功司教司式四十五人の司祭が共祭で行われた。



按手黙祷する菊地司教

賛美と感謝と喜びの日

カテドラルには八戸塩町教会

(仙台教区・青森県)、末吉町

教会(横浜教区・横浜市)、貸

切バスを仕立て駆け付けられた

小平教会(東京教区・小平市)

の五十余人の信徒の皆さんや東

京からの友人、神学生など教区

内外からおよそ三五〇人を超え

る信徒が聖堂にあふれ、前庭に

設けた仮設のテント内も埋めつ

くした大勢の信徒たちが新司祭

の誕生を見守り、喜びのうちに

神への賛美と感謝を捧げた。

叙階の儀 正午のアンジェラス

の鐘が鳴り響く中を、十字架と

ろうそくを先頭に受階者の坂本

助祭と教区内外からの45人の司

祭団の入堂が続いた。

立錫の余地もないほどに埋め

つくされた信徒の「しあわせな

人」の典礼聖歌に迎えられて、叙階式は始まった。

江部純一師(新潟教会主任司

祭)の福音の朗読の後、川崎久

雄師(教区司教総代理)によつ

て推薦と証言を受けた受階者は

叙階の誓約を行い、司教が「こ

の兄弟を司祭団に加える」こと

を認めると、「神に感謝」と参

列者全員が唱和して一斉に賛同

の拍手が沸き起こった。

菊地司教は説教で「四年前(二

〇〇五年)の高橋神父様の叙階

式の時には、これから十年位は

司祭叙階はないだろうと思っ

ていましたが、こんなに早くき

よの叙階式を迎えたことは神様

のおはからいです。」そして世

界召命祈願日の教皇メッセー

ジ『神の呼びかけを信じること』

を引き、収穫のために働き手を

送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。このことは絶えず教会のうちに響いています。主を信頼して召命のために祈り続けることの大切さを強調されて、司祭は信徒の皆さんの祈りによって育てられています。どうぞ新司祭のあとに続く司祭の召命のために一層の祈りと努力を呼びかけた。

続いて祭壇の前で床に伏す受

階者と参列者全員で心を合わせ

て「諸聖人の連願」を唱え受階

者に諸聖人の取り次ぎを願った

後、菊地司教は受階者の上に手

を置き(按手)黙祷し、共同司

式の司祭全員もこれに続いた。

菊地司教は両手を広げて荘厳

に叙階の祈りを唱えられると、

信徒全員は「アーメン」と唱和

した。感謝と喜びに包まれた新

司祭坂本耕太郎神父誕生の瞬間

である。

新司祭は新しい祭服を着けて

聖香油を手を受け、感謝の典礼

の共祭に加わってミサは進み、

聖体拝領では新司祭が拝領の一

人ひとりに聖体を授け祝福を与

える姿が忘れられない。

派遣の祝福の前に設けられた

「感謝の集い」には、司祭団を

代表してまず司教総代理の川崎

久雄師が、次に日本カトリック

神学院を代表して前神学院長の

平田豊彦師が、続いて教区の信

徒を代表して新潟教区信徒使徒

職協議会斎藤会長のお祝いの挨拶があった。

お礼の挨拶に立った坂本新司

祭は「きょう神父になれたこと

が、自分自身でも不思議でなり

ません。」などと緊張のおももちで素直に感動を語り、あつく感謝を述べて、ひととき大きな拍手に包まれた。

派遣の祝福の前に菊地司教から坂本神父を新潟教会助任司祭に任命する旨の発表があり、「主

よあなたの道を歩めるように、正しき道しるべを示してください

」。閉祭の合唱が聖堂に響いた

喜びと感動の叙階式であった。

祝賀会 カトリックセンターの

一、二階とも三五〇人を超える

参列者にあふれ、神学生時代の

新司祭をお世話くださった萩窪

教会(東京教区)の鈴木隆さ

んの乾杯のことばでお祝い会は

始まった。「これから車に例

えればガソリンになるよりオイ

ルになってほしい。歯車と歯車

を滑らかに動かすオイルは狭い

空き間に入り込んで汚れをおと

す役割を終えると、最後は真黒く

なって捨てられていく潤滑油に

なるように」との贈ることばに、

神学生時代の付き合いの厚さを

感じさせた和やかな恵みと喜び

を分かち合った祝賀会が続いた。

司祭の年に：

フランシスコ・サレジオ坂本耕太郎



生きるということとは祝祭であり、すばらしいことです。つまり、おめでとう！です。毎日がおめでとう！今日も、明日もおめでとう！この喜びを出会うたびに確認し合い、さらに、一人でも多くの人に伝えたいと願っています。

これまで、祈っていただき感謝しています。司祭年の間は世界中の司祭のため、日本の司祭のため、そして新潟教区のために祈りくださいます。

叙階式とその後「おめでとうございます！」と言われ

る度に、心の中で「はい、私

はおめでたいのです！」と答

えていました。

西暦二〇〇〇年、大聖年の

年に神学院に「入院」して、

今年、司祭年に(厳密に言え

ば、司祭年の開始は六月十六

日です。司祭年の直前「

ですが、叙階された私は、

実におめでたい人間です。

叙階式とその後「おめで

とうございます！」と言われ

る度に、心の中で「はい、私

はおめでたいのです！」と答

司祭人事

※カッコ内はこれまでの任務

人事異動

第一次(二月十五日付任命)

《新潟地区》

江部純一神父は新潟教会主任

(東京教区習志野教会主任)

《長岡地区》

フェルディナール・ファミニア

ラガオ神父は表町教会・福住

教会・十日町教会助任(新潟

教会助任)

第二次(四月一日付任命)

《秋田地区》

永山誠神父は秋田教会主任(同

教会助任)

《山形地区》

マルチヌス・パリヤント神父は

山形教会助任(さいたま教区

つくば教会担当)

《新潟地区》

フランシスコ・スリワルヨ神

父は教区外へ転出(山形教会

助任)

第三次(五月六日付任命)

《新潟地区》

坂本耕太郎神父は新潟教会助任

(新司祭)

役職任命

司教総代理 川崎久雄師(再任)

教区本部事務局長・教区会計

大瀧浩一師(再任)

顧問

川崎久雄師(再任)

大瀧浩一師(再任)

真壁良雄師(新任)

本間研二師(再任)

フーベルト・ネルスカンブ師(新任)

飯野耕太郎師(再任)

秋田地区長 桃田清明師(再任)

山形地区長 本間研二師(再任)

新潟地区長 佐藤允広師(再任)

新潟地区長 山頭泰種師(新任)

長岡地区長

フーベルト・ネルスカンブ師(再任)

※地区長は役職上、司祭評議会、

宣教司牧評議会評議員および教

区共済基金理事となる。

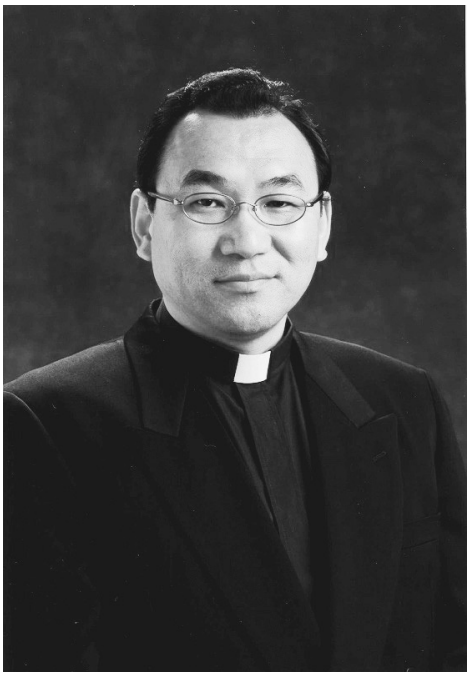
学校法人聖母学園事務局長

大瀧浩一師(新任)

2009年

菊地司教 年頭司牧書簡 “あかしに生きる”を发表

菊地司教は年頭司牧書簡をもって昨年八月に司牧書簡で示したこれからの「福音宣教の三つの分野の最優先課題」をこしは実践に移す年にしようと呼びかけ、福音宣教の取り組みと教区百周年に向かつての道筋を示した。



福音宣教の最優先課題への取り組み

昨年の八月に次の三つを福音宣教の最優先課題として明示した。

A 世代や国籍を超えた交わりの共同体を構築する。

B 教区全体の情報共有のネットワークを生み出す。

C 継続した信仰養成を充実させ、成熟した信仰者への脱皮を図る。

今年の四月二十九日に開催を予定している教区の宣教司牧評議会には各小教区や地区において、それぞれの現実をふり返り三つの優先課題について問題点や困難さ、それに対する取り組みの方法についてできるだけ具体的に話し合いたいとしている。

目にこれまでの福音宣教の歩みをふり返って、現在と将来の福音宣教を考える霊的な「時」としたいと呼びかけて次の三点を一〇〇周年の前後に是非実現させたいと発表した。

一、山形県新庄市近辺に山形地区の取り組みに教区全体として協力しながら、新しい教会を建設したい。

二、教区センター建設を視野に

教区宣教司牧評議会総会

四月二十九日十時から新潟カトリックセンター・ホールで教区宣教司牧評議会は第三回の総会を開き、教区の各地区から地区長と信徒代表各二人と奉獻生活者の代表、女性の会代表など二十人が集まって福音宣教の教区の最優先課題について話し合った。

各地区から次のような意見が寄せられた。

A 世代や国籍を超えた交わりの共同体を構築する。

◆秋田地区

◎フィリピン人の受け入れ

・今ある組織、活動を生かし、視点を変えて問題に取り組む。

・グループのリーダーを養成し、そのリーダーを通じて交流を深める。

◆新潟地区

◎若者の育成

・中高生と教会学校の連携を強化する等。

◆山形地区

・山形教会は新しい信徒協議会の運営状況の検証と見直し、呼びかけの継続。

・新庄地域に教会建設計画の促進

・未信者・転入者への声かけと

いれて、新潟教会聖堂裏敷地の有効方策について二〇一二年以降に具体化できるように検討をはじめ。

三、ロシアのハバロフスク小教区と友好関係を更に深めたいということである。

五月六日には司祭叙階式が、五月十六日には米沢の殉教者列福感謝式典が予定されている記念する年頭司牧書簡であった。

参加促進。

・長井教会は高齢化が進み、米沢教会と協力し合って諸問題に取り組む等。

◆新潟地区

・熟年信徒の送迎ほか。

・ミサ後の集いと分かち合い。病氣やその他の理由で教会へ来られない方々の配慮。

・外国籍信徒のための窓口と受け入れ体制の充実など。

◆新潟地区

・外国籍移住者の個人的悩みごとの相談窓口の検討。

・外国籍信徒の初聖体勉強会・教会学校。

・外国籍信徒の教会維持費負担の問題と教会活動への勧誘。

・若者の集まりの推進など。

・自力で教会へこられない人の送迎や訪問。

・買物ボランティアの充実等。

B 教区全体の情報共有のネットワークを生み出す。

◆秋田地区

・地区かわら版を活用して情報発信。

・教区本部から地区から小教区というように情報の流れを階層化し明確にする。

・小教区の情報を地区にまとめて教区へ送る係を決めて情報の流れを整える等。

◆山形地区

・地区内での情報取りまとめ責任者を決め、収集と発信を行うシステムの構築を検討など。

◆新潟地区

・学生の転入もあるので、転入者を中心にネット・ワーク作り等。

◆新潟地区

・具体的な問題に対処できる人材(医師、弁護士、不動産関係の専門家)の相談窓口の確保など。

◆長岡地区

・各小教区間の情報交換など。

C 継続した信仰養成を充実させ、成熟した信仰者への脱皮を図る。

◆秋田地区

・聖書、信仰の維持、未信者からの問いかけの対応などについて神父様の定例講座の実施。

・教区内での巡回信徒養成コースの実施など。

◆山形地区

・信仰と生活の遊離の問題を考える。

・子供の信仰教育の認識強化等。

◆新潟地区

・壮年層を中核に集まりと信仰学習。

・カトリック新聞を教材にした勉強会の実施。

・主任司祭を中心に専門スタッフを定めて養成プログラム作成と研修の実施。

・各小教区の信徒会長を集めてリーダー養成指導をする等。

◆新潟地区

・教区あるいは地区単位での信仰養成講座の開設。

・教区、地区で随時開催する信仰講座の開催。

・東京で開催される講座参加費の補助。

・求道者への対応、支援、助言ができるような対応など。

◆長岡地区

・土曜学校、サマースクール、錬成会の充実。

・信徒リーダーの養成。

・典礼勉強会の充実など。

まとめ

一、外国籍信徒の関わりの中の山形県新庄地域に新しい教会を建設したい要望については地区と教区が一丸となって支援することが確認された。

二、信仰養成の取り組みと強化の対応については、信仰教育を担当する信徒リーダーの養成や、典礼の学び、侍者の養成、信徒自身の信仰を深める養成など、さまざまなレベルで養成を活性化させるための対応について、教区では具体的な方策をすすめることになった。

ミカエル山頭泰種師 司祭叙階三〇周年を祝う

三月二十九日に山頭泰種師(亀田教会主任司祭)は、午前九時から司祭叙階三〇周年記念ミサを菊地司教と共祭で献げた。

山頭師の三〇周年を祝う記念ミサには、地元信徒をはじめ近隣教会の信徒と幼稚園で働くマリアの宣教師フランシスコ修道会のシスターら一〇〇人近い参加者に教会学校の子ども達も参加した、なごやかな記念感謝ミサであった。

司祭銀祝は叙階二十五周年記念を祝うことなのだが、山頭師は一九七九年三月二十五日に司祭に叙階されてから後、長年

フィリピンで働かれていて現地で滞在されていたために先延ばしになっていて、二〇〇七年の亀田教会新聖堂の完成など積年の念願を果しての山頭師の叙階三〇周年には信徒たちの喜びは特に大きい。

午後から新潟市内のホテルで祝賀会が行われて、参加者や信徒たちと共に喜びを分かち合った。



記念のミサを捧げる山頭神父と菊地司教

教区青年の集りを開催

ヨハネ・パウロ二世教皇が一九八五年に定めた「世界青年の日」に教区の青年有志が呼び掛けて、四月四日・五日一泊二日で新潟教区青年の集りを新潟カトリックセンターで開催した。



青年の集りのテーマは「新潟教区の青年としてできること」で秋田地区、新潟地区、新発田地区、長岡地区とほぼ全域から約二〇〇人の青年が集まって、これからの青年たちの活動について真剣に話し合った。

四月五日の「世界青年の日」には教皇ベネディクト十六世はメッセージで『若い世代に特有の熱意をキリストとの関係から得られる堅い希望で支えていくように呼び掛けて、真の永遠の希望は神からだけ与えられることを知っているキリスト者には、他の人に希望を示す務めがあると説き、若いカトリック信者たちはイエスへの信仰を堅く保ち、同世代の仲間たちに希望を証しするキリスト者になるように語りかけられた。』(要旨)

カトボラ大会 新潟で開幕

四月十八・十九日の両日、カトリック・ボランティア連絡協議会の第10回総会の新潟大会が新潟カテドラルを会場に開かれた。

初日は全国から集まった一〇〇人を超える参加者によって、「災害時のボランティア・ネットワーク」(あなただったら、どのようにかわる)を主テーマに「多文化共生と自然災害」、「化学物質汚染について」、「エイズに関わって」、「学校と地域で育む子供たち」について講演と分科会があった。

青年部会が設けたテーマ「限りある生命に向き合って」は、新潟清心女子中学・高等学校の教師山崎智行さんが発表者となった高校生の奉仕活動と、高校生の心の成長と奉仕活動に

二日目はこれまでのカトボラ担当司教であった松浦悟郎司教(大阪教区)とこれからの担当となった菊地功司教の共祭で感謝と派遣のミサが行われ、二五〇人近い参加者でカテドラルはいっぱいになった。

カリタスジャパン 新潟で報告会

三月十五日、新潟カトリックセンターのホールでカリタスジャパンは海外援助の視察報告会を開き、集まった四〇人近い参加者に、援助資金の使途説明と現地報告と更なる協力を呼びかけた。

この報告会ではカリタスジャパンの教区担当の町田正神父(寺尾教会)が準備し、新潟地区信徒使徒職協議会の総会前の約一時間程度の開催であったが、広く一般にも呼びかけて、カリタスジャパンの職員稲江佐和子さんが「あなたの愛の献金でこの笑顔が」と題して、カンボジアやバ



愛の献金でこの笑顔がと語る

ノートルダム 新潟修道院閉鎖

一九六四年以来、新潟清心女子高等学校の設立母体として教区における教育宣教司牧に尽力

ので、一九八一年設立され名古屋・大阪・東京・広島・京都・高知・札幌・横浜・長崎と、今回は新潟教区で開催し、三年後の二〇一二年の大会は沖縄で行われる。

「神に愛されていることを信じる者は、他者を愛せずにはいられません。そして、愛するが故に、他者の二ードに依えずにはいられません。その気持ちを社会に活かすことが、ボランティア活動ではないでしょうか」

行いの伴わない信仰は役に立たない(ヤコブの手紙二章の二〇)。私たちキリスト者は「イエス・キリストの生き方を生きよう」と決心したことを忘れてはならないと誓い合い、友情と信仰を深め合った大会であった。

したナミユール・ノートルダム修道女会は、二〇〇九年三月三十一日をもって新潟修道院を閉鎖して、新潟教区で働くすべての会員が教区を離れた。

それに伴い、新潟清心高等学校の経営母体は学校法人ノートルダム清心学園を離れ、四月一日から独立した学校法人となつて、新法人は学校法人ノートルダム新潟清心学園となり、理事長には等々力好泰氏が就任した。

当学園の宗教教育が、これまで通りカトリックの信仰に基づいて継続されることが保証されているので、菊地司教は当面の間、新潟清心中学高等学校をカトリック学校と認定した。

新潟教区二〇〇八年度決算概要

宗教法人法の定めにより、毎会計年度終了後に、各小教区からの会計報告を集計して、本部会計とともに所轄庁（文化庁、税務署）に決算書類を提出しています。

二〇〇八年度の決算につきましては三月に開催された教区の顧問会、司祭評議会にて承認されましたので、決算書類を所轄庁に提出いたしました。本号で二〇〇八年度の教区本部会計と小

教区財政の流れ・支え
信者の皆さんから小教区に納めていただく献金、各小教区から教区本部に納めていただく維持費・負担金等の資金の流れは図（資料1「主な収入・支出の資金の流れ」）のようになります。
・信者の皆さんから小教区に納めていただいた献金等は総額

で1億3、440万円、また事業収入等信者以外から小教区への収入は360万円でした。

・各小教区から教区本部に納めていただいた負担金等は3、640万円、小教区以外から教区本部への収入は2、990万円、本部一般会計の収入合計額は5、200万円でした。

各小教区から教区本部に納めていただいた負担金等は一般会計全体収入の43%、また、司祭からの寄付金も収入額全体の30%と大きな割合を占めています。

小教区全体の財務状況を見てみると、地理的な状況により、信徒数も多く比較的収支バランスの取れている教会もあり、聖堂や信徒会館の補修費の捻出に苦労している小教区もあります。

自分たちの属している教区、小教区のためにこれからもご協力をお願いいたします。

教区本部の収支状況

→実質145万円の赤字

（資料2の「教区本部一般会計収支」参照）

教区本部一般会計は、全体で1、042万円の黒字となりましたが、司祭給与資金収支の黒字分879万円と一粒会資金収支の黒字分308万円を特別会計（司祭会計、一粒会会計）に振替える金額を差引きすると、実質145万円の赤字となりました。

二〇〇七年度に比較いたしますと、一般会計全体で215万円、実質で150万円ほど改善いたしました。

二〇〇七年度との大口の増減内容は次のとおりです。

① 教区負担金（教区維持費）

122万円増加しました。

二〇〇八年度から教区負担金は前年度の献金収入額（実績額）をもとに本部で計算し、通知した金額を送金いただきました。

増加した金額は、二〇〇七年度分が年越しで送金されたため一時的なものです。

② 寄付金収入（一般寄付金等）

171万円増加しました。

本部隣接地（聖園幼稚園跡地）を駐車場として賃貸してありますが、駐車場の収支額280万円を一般会計に組み入れました。

（教区の財政基盤拡充のための対応として、二〇〇八年度から一般会計に組み入れたものです。）

③ 献金収入

412万円増加しました。

二〇〇七年度から殉教者のための特別献金をお願いしております。

殉教者のための祈りの小冊子、サムライたちの殉教絵本等の支払のため、特別献金額から482万円を支払いました。

特別献金から一般会計に振替えて処理しましたので、その金額が増えました。

④ その他の収入、その他の支出（財務収支等）
収入は3、309万円、支出

は2、737万円減少しました。一昨年（二〇〇七年）土地・建物の売買と建物の改修工事があったためです。

秋田大仙市と新発田市で、市土地画整理事業による土地売却、代替地購入と教区本部ビアンネ館の改修工事がその内容です。

小教区の収支状況

→資料3の「小教区一般会計収支」参照

小教区一般会計は、全体で833万円の黒字です。

經常収支ベースでは880万円の赤字ですが、赤字分は今までの繰越金や建設資金等の積立金を取崩して充当しています。

項目ごとの大きな動きは次のとおりです。

① 献金収入

高齢化、経済情勢等様々な要因があると思いますが、全体で272万円減少しています。これは新潟教区だけでなくこの教区でも同じ傾向が続いている状況です。

② 寄付金収入

994万円減少しています。一昨年は中越沖地震で全国から926万円の義援金が寄せられました。

③ 宗教活動費

370万円減少しています。一昨年は献堂式・記念式典等で300万円程度の出費がありました。

④ 財務収入、財務支出
それぞれ1、857万円、976万円増加しています。

信徒会館の建設費、建物の補修等と建設積立金の取崩し、借入金の収支がその内容です。

その他、各小教区から指定献金として送金いただいている内容は、資料4「指定献金受入一覧」のとおりです。

今後の取組事項と課題

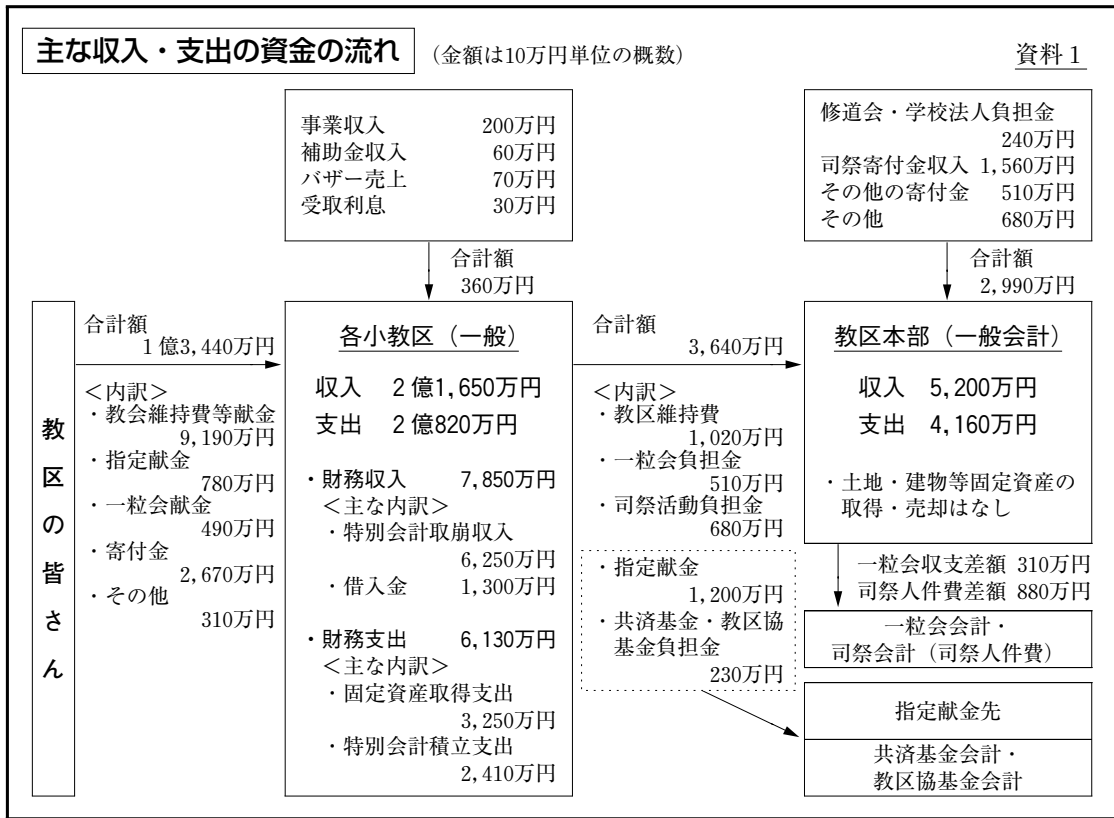
・今年度（二〇〇九年度）から教区維持費の負担増をお願いいたしました。二〇〇八年度までは、献金額の一律10%をお願いしておりましたが、今年度から信徒数により10%～15%を負担いただくことにし、先般通知させていただきました。この教区維持費増により教区本部の一般会計は、特別の要因がなければ今後赤字解消ができるかと考えています。

・昨年来の懸案であった土地・建物、什器備品等の財産目録の全面洗い直しを今年度中に行います。現時点の本部でとらえている明細を整理し通知いたしますので、各小教区で見直し確認をお願いいたします。

また、会計の手引書の作成をいたします。

これら財産目録の整備と手引書内容については、今年度後半に地区別に説明会の開催を予定しています。

今後も経済的なご協力とともに、各小教区と教区本部の事務処理体制の整備についても格別なご協力、ご支援をお願いいたします。
（教区事務局長 大瀧浩一）



2008年(平成20年)度 教区本部一般会計収支

資料 2

(単位：千円)

項 目	平成20年度	平成19年度	対前年度比
負担金収入	24,466	22,257	2,209
教区負担金（教区維持費）	10,168	8,944	1,224
司祭活動負担金	6,827	6,030	797
一粒会負担金	5,066	4,878	188
学校法人・修道会負担金	2,405	2,405	0
寄付金収入	20,703	19,838	865
司祭寄付金	15,555	16,400	-845
一般寄付金 等	5,148	3,438	1,710
献金収入	6,593	2,473	4,120
その他の収入	251	33,344	-33,093
収入合計	52,013	77,912	-25,899
宗教活動費	13,107	13,617	-510
神学生養成費	2,451	2,351	100
祭儀費 等	10,656	11,266	-610
事務運営費	5,832	5,775	57
人件費	22,130	22,351	-221
司祭人件費（含法定福利費）	13,590	14,538	-948
職員人件費	8,540	7,813	727
その他の支出	520	27,896	-27,376
支出合計	41,589	69,639	-28,050
①収支差額	10,424	8,273	2,151

<司祭寄付金等と司祭人件費>

司祭寄付金・司祭活動負担金	22,382	22,430	-48
司祭人件費（含法定福利費）	13,590	14,538	-948
②司祭人件費等収支額	8,792	7,892	900

<一粒会負担金と神学生養成費>

一粒会負担金 等	5,666	5,690	-24
神学生養成費	2,451	2,139	312
地区練成会等補助	131	212	-81
③一粒会収支額	3,084	3,339	-255
実質収支額（①-②-③）	-1,452	-2,958	1,506

2008年(平成20年)度 小教区一般会計収支

資料 3

(単位：千円)

項 目	平成20年度	平成19年度	対前年度比
献金収入	91,926	94,650	-2,724
教会維持費収入	49,531	50,977	-1,446
ミサ献金収入	24,502	23,978	524
一般・臨時献金収入	5,462	5,923	-461
祭儀献金収入	5,933	7,190	-1,257
司祭活動献金収入	6,498	6,582	-84
指定献金収入	7,776	8,240	-464
一粒会献金収入	4,886	4,886	0
寄付金収入	26,741	36,687	-9,946
事業収入	1,968	2,488	-520
その他の経常収入	4,742	5,441	-699
財務収入	78,458	59,888	18,570
収入合計	216,497	212,280	4,217
宗教活動費	52,875	56,584	-3,709
指定献金支出	7,835	8,494	-659
一粒会献金支出	4,961	4,813	148
事務運営費	36,781	35,341	1,440
人件費	7,945	16,201	-8,256
維持管理費	35,974	36,594	-620
事業支出	380	721	-341
その他の経常支出	96	2,633	-2,537
財務支出	61,311	51,550	9,761
支出合計	208,158	212,931	-4,773
全体収支差額	8,339	-651	8,990
経常収支差額	-8,808	-8,989	181

2008年(平成20年)度 指定献金受入一覧

資料 4

(単位：千円)

項 目	平成20年度	平成19年度	対前年度比
カトリック児童福祉の日献金	1,152	1,169	-17
教区青少年の日献金	442	414	28
四旬節愛の献金	1,672	1,796	-124
聖地のための献金	354	349	5
世界広報の日献金	385	463	-78
聖ペトロ使徒座への献金	516	516	0
世界難民移住移動者の日献金	519	486	33
世界宣教の日献金	493	522	-29
宣教地司祭育成の日献金	546	583	-37
列福特別献金(含「サムライたちの殉教」協力金)	5,878	1,486	4,392
その他（クリスマス献金等）	10	215	-205
合 計 額	11,967	7,999	3,968

新 潟 司 教 区 統 計

(2008年12月31日現在)

1. 概 況 (教区人口比：0.16%)

面積	33,518km ²	信者総数	7,338人
人口	4,692,473人	求道者	80人

2. 人 員 構 成

司 教	1	聖霊奉侍布教修道女会 邦人	8
教区司祭 邦人	15	外国人	2
外国人	1	聖心の布教姉妹会 邦人	46
助祭 邦人	1	マリアの宣教者	
神言会員 邦人	6	フランシスコ修道会 邦人	4
外国人	3	ナミュール・	
フランシスコ会員 邦人(修道士)	5	ノートルダム修道女会 邦人	4
イエズス・	1	無原罪の聖母	
マリアの聖心会員 邦人	2	フランシスコ姉妹会 邦人	0
外国人	2	外国人	2
他教区から派遣司祭 邦人	2	オタワ愛徳修道女会 邦人	3
神 学 生 邦人	0	外国人	1
		聖クララ会 邦人	9
		聖マリア在俗会 邦人	16

3. 事 業

小教区教会	31	幼稚園	27
分教会・巡回教会	4	園児数	2,732
集会所	4	女子中学校	2
女子修道院	10	生徒数	174
社会福祉事業		女子高等学校	2
老人ホーム	3	生徒数	1,132
宿泊を伴う利用者数	182	女子短期大学	2
その他の老人福祉事業	13	学生数	568
宿泊を伴う利用者数	58	児童福祉事業	
宿泊を伴わない(年間のべ人数)	37,428	保育園	7
その他の福祉事業	1	園児数(年間のべ人数)	160,178
宿泊を伴う利用者数	0	宿泊を伴う利用者数	0
宿泊を伴わない(年間のべ人数)	72	その他の児童福祉事業	7
		宿泊を伴う利用者数	260
		宿泊を伴わない(年間のべ人数)	10,293

4. 移 動

	転入	転出	死亡
教区内	5	5	
教区外	30	33	
その他	1	20	65

2008年

教 会 名	信 徒 数	洗 礼			堅 信	結 婚 ^注	求 道 者
		幼	児	成 人			
1 青 山	231	4		2			4
2 亀 田	79			1	1		3
3 白 根	16						
4 寺 尾	167			2	1		
5 新 潟	752	3		4	3	2	5
6 花 屋	427	1		1	8	3	3
7 鳥 野	62						8
8 佐 渡	69						
新潟地区計	1,803	8		10	13	5	23
9 加 茂	31						2
10 三 条	129	2		1			
11 新発田(村上)	276	2		1			3
12 栃 尾	25						
13 新 津(村松)	150	2		1			2
14 見 附	137	1					1
新潟田地区計	748	7		3	0	0	8
15 糸 魚 川	140	2		2	1		1
16 柏 崎	455	8		9	13	1	13
17 高 田(妙高)	834	8		11	14	4	4
18 十 日 町	114	3		1			1
19 直 江 津	165	4		2	3		
20 長 岡 表	257	3		3		1	3
21 長 岡 福 住	209						3
長岡地区計	2,174	28		28	31	6	25
新潟県合計	4,725	43		41	44	11	56
22 酒 田	35						2
23 鶴 岡	193			1		2	2
24 山 形(新庄)	488	4		15	5	4	5
25 米 沢(長井)	126	2					2
山形地区計	842	6		16	5	6	11
26 秋 田	864	2		4		3	10
27 大 館	67	1					
28 鹿 角	43	2					
29 土 崎	382			3	3	1	1
30 能 代	44						2
31 本 荘	51			1			
32 横 手(上宿)	186	2				2	
秋田地区計	1,637	7		8	3	6	13
新潟教区計	7,204	56		65	52	23	80

聖職者・信徒・信者総数 7,338…聖職者数134名＋一般信徒7,204名

注. 結婚：信者同士、信者と他キリ、信者・非キリのみ
秋田教会には、聖体奉仕会の人数（29人）が加算されております。

【県別内訳資料】

■新潟県	県庁統計課 TEL. 025-285-5511
面 積	12,583km ²
人 口	2,394,314人 (昨年) 2,406,687人
信徒数	4,725人 (人口対比0.20%) 4,725人 増減 0人

■山形県	県庁統計課 TEL. 0236-30-2179・2180
面 積	9,323km ²
人 口	1,189,152人 (昨年) 1,197,174人
信徒数	842人 (人口対比0.07%) 833人 増減＋9人

■秋田県	県庁統計課 TEL. 018-860-1258
面 積	11,612km ²
人 口	1,109,007人 (昨年) 1,119,231人
信徒数	1,637人 (人口対比0.15%) 1,657人 増減－20人